

人文会ニュース

1993. 7

カウンターの向こうから

.....市原市立中央図書館 平川裕子



1

氾濫する分類

.....東京堂書店 佐野 衛

6

〔人文書講座28〕

近代思想との格闘——この十年の果実

11

.....浜田義文

93年度委員会活動について



25

67

ケルト

—生きている神話—

F・ディレイニー著／鶴岡真弓監修
森野聡子訳 ヨーロッパ文明の基層を
なし、現代まで大きな影響を与えつづ
ける“幻の民”の実像を探る。 3000円

「知の再発見」双書28 黄金のビザン ティン帝国

M・カプラン著／井上浩一監修 大ロ
ーマ帝国の後継者として東洋と西洋の
十字路口にあった1100年の歴史 1400円

創元社 大阪市北区西天満1-4-2
東京都新宿区山吹町334-11

中国20世紀史

堀田光義・阿部治平・石井明・岡部孜夫・久保亨
中野達・前田利昭・丸山伸郎 A5判／二八八四円(税込)

「20世紀」という文脈で近代をとらえなおす時がきた。本書は辛亥革命を近代中国の出発点と位置づけ、革命・大戦・冷戦を経るなかで何が変わり、何が生まれ、何が残ったのか、中国にとっての「20世紀」は何かを総括する。新たな日中関係を担う人たちがへおくる。

高橋康夫・吉田伸之
宮本雅昭・伊藤 毅編 A4判／二五七五〇円(税込)

図集 日本都市史

古代都城の建設から近代都市の成立に至る日本の都市の展開・発展を五百余の復元図版・写真図版によって示す初めての本格的な都市史図集である。

東京大学出版会

〒113 東京都文京区本郷7 ☎03(3811)8814

マン・レイ

ニール・ボールドウィン 鈴木主税訳
絵画、写真、映画をはじめ、20世紀
芸術のあらゆるジャンルを飛翔した
鬼才の全生涯を描く。 定価4800円

シリーズ●第10巻

日本人はどのように建造物をつくってきたか

桂離宮

日本建築の美しさの源流
斉藤英俊 イラストレーション 穂積和夫
美しさの真髄をはじめてイラストで
解明した待望の本。 定価2000円

草思社 〒150 東京都渋谷区神宮前4-26-26
電話03(3470)6565 振替東京7-23552

江戸漂流記総集

石井研堂コレクション

全6巻完結!

四六判上製貼箱入・
定価各巻8000円

何千何万のいのちと引き換えに収集された漂流記録は、
平成鎖国といわれる現代に衝撃を与えずにはいない。

〒170 豊島区南大塚3-10-10
☎03(3987)8621

日本評論社

カウンターの向こうから

市原市立中央図書館 平川 裕子

私は、この4月から、市立図書館にいる。図書館で、働きだして、かなりの年月と、幾つかの図書館を経た。

卒業してすぐに、慈恵会医科大学の図書館に勤務。私の図書館サービスの基本は、ここで教えられたといつて過言でない。実務面は当然ながら、とりわけ司書として、立ってゆく姿勢を学んだ。

それは、研修の大切さ（自己研修と、制度として勤務に位置づけられた研修の両方が必要）と、図書館界全体の情報を知っておくこと（国内・外の情報も含め、自分の属する業界の図書館界だけでなく、図書館界全体の様子）の二点だろうか。

慈恵時代、新人は、館内の各セッションをある期間、

廻った後、配属が決まった。また月に数回、午前中、カウンター当番以外、全員で図書館関係の英語文献を読んだり、館長から、ホルマリン漬けの標本を、目の前にして、医学英語を学んだこともあった。

最初の担当の仕事は、裏方で、購入した資料を利用者が使えるように、図書館の棚にならべるまでの作業をする整理係だった。ドイツ物のシリーズの複雑な付け方があったり、西洋人名の称号の扱いの差、出版社も人文会系の資料は少なかった（別の場所に教養課程）。

次の担当の仕事は、相互協力係といつて、図書館がネット・ワークを組んで自館にない文献を他の図書館から取り寄せたり、逆に、他館からの請求によって送った

り、利用者の要求によっては、海外の図書館にたのんだ。(国内より早く着く場合もあった) テレックス(何て古いか) か往復ハガキでやりとりしていた。

本誌の65号(イエンチン図書館について。青木利行氏)の中で、かつての上司の名前がのっていたが、米国の図書館長は、公募で行うとか、米国の図書館事情をよく話していたのだ。

次に千葉県がんセンターの図書室に移った。県立のがん専門病院で、研究局もある病院、医療スタッフ用の図書室。職員が二名。予算(比較的あった)管理、資料収集、図書委員会の開催や業務全般にわたった。

病院の図書室の職員を知らなければ、モグリと言われる位、いろんな人が来るところだった。普段動かない、伝染病関係の文献が出てゆくのを見ると、何かあったかな?……とか、「来週○○の手術をやるので、この術法じゃない文献を探してくれ」とドクターが来れば、次々に、看護婦さん、技術者達が、同じく探してくるとか。利用者の要求をみていけば、院内の様子、世の病気の傾向などが自ずと分かってくる。看護婦さんに人気のあるドクターは誰かまでわかるんだから。

人間の生死と向かいあっているのが、厳しいが、面白い所だった。館と室では、総ての規模は違うけれど、利用者が要求するサービスは、病院図書室は、大学図書館と住み分けしている。最前線という言葉が、ぴったりくる。

また総合病院と専門病院でも、利用者(ドクターや看護婦さん)のタイプや要求する文献も、当然違ってくる。要求された資料を、早く、適切に、探して渡す事は大前提(「二日後に、○○の文献を頼む」とドクターに言われ、文献を渡したら、「いらなくなった。患者さんがダメに……」と伝えられた、他の病院図書室の仲間もいたくらいなもの。)

それに、病院図書室のライバルは、製薬会社のプロパーさん達、という実態もあったので、頼まれた文献は、余計早く渡したいと思った。(プロパーさんに頼めば、タダで入手できるし、文献面をサービスの一環としている製薬会社も多かったから。頼まないドクターもいたが)

総じて、医学図書館は文献を調べるための、道具が発達している。病院図書室が、あるレベルの仕事ができるのは、そのおかげだ。

米国の国費で作っている、米国国立医学図書館の雑誌記事の索引誌や日本の医学中央雑誌などがあり、病気という世界共通の悩みのためという点もあるだろう。

今や、公共図書館でも、CD-ROMとオンラインのデータベースを使い分ける時代になっているが、当時は、日本でやっと、米国の医学の索引誌のオンラインができるようになった。病院図書室に、オンラインのデータベースを利用すべく、予算要求し、導入が決まった。

その年（'81）、私は、転勤になった。千葉県立中央図書館だった。千葉県関係の「郷土資料室」の担当となる。

公共図書館では、アルバイトの経験はあったが、郷土・行政の資料を扱うのは、初めての経験だった。最初はとまどったが、日本語の文献だし、「郷土資料総合目録」や、その「索引編」が、これまた良くできていて、ありがたかった。それは米国の医学の索引誌と同じような考え方で編集されている。例えば、単行本の論集の、個々の著者やタイトルからも引けたり。手作業で、よくぞと思って使わせてもらっていた。大へんなスグレモノだ。

郷土資料室で何年か過すうち、県内の公共図書館の仲間と一緒に学びたくなり、「郷土・行政資料研究会」を皆

で作り、千葉県公共図書館協会の研修・研究会の中に位置づけていただけたのは、大変うれしかった。

実務担当者レベルで、どの位、意見・情報交換できるかによって、仕事が進み、深まり、楽しくもなる。

郷土資料室は、これまた、様々な利用者がいて、大げさに言えば、全国からもいらした。先祖・ルーツ調べ、古地図、鉄道、古城址など、古い事から現在の事、将来の計画など、歴史的分野から行政的な資料まで。利用者は、プロ・アマ問わず、皆さん、よく御存知で、様々な事を文献を中だちとして教えていただいた。

質問される事によって、あちこち調べたり聞いたり、資料も増える事も、多々あった。

地域の資料は、地元の公共図書館が、気を入れて、収集するのは大事だといつも痛感されられていた。前の図書室とは、資料の分野は、全く違いが、サービスの基本は同じだ。その後、整理係を経て新聞雑誌室の担当となった。

一体に、県立図書館は、利用者の要求の、全体的傾向、あるいは世の流行がキャッチできる所だ。県立にいた時は、ある程度、自覚していたが、離れてみると、トレン

ドを掴める場所だと、胸をはって言える。それは、サービスの窓口にいればこそだが。

県立の第一の役目は、市町村図書館のバック・アップだが、その手段である市町村からのリクエストの束に、カギがある。そりゃ、当然、市立図書館も、ハヤリ物は、すぐ分かるけれど、利用者から、質問が集中してくる調査相談、郷土資料や新聞雑誌室の傾向は、市立ではつかめないものもあると思う。

市町立図書館からの熱い要望を、県立図書館はしっかり受けとめ、県立ならではの蔵書構成をしてほしい。市立の弱い収集部分を、引き受けてもらえれば、県内の利用者は、市立・県立と一体になった蔵書のサービスが、受けられる。非流通本、かなりの専門書、高価本、やわらかい本など県立へのラブコールは増すばかり。

そして、この4月、91年11月オープンした市原市立中央図書館にいる。

アルバイトは、別にして、今まで四種類の図書館で働いてきた。その中で、教えてもらったり、気づかされたりは、いつも利用者からだった。利用者の要求によって、成長させてもらったと思う。

たとえば、その要求が理不尽だったり、わがままだとしてもだ。——そうであれば、ある程度、こちらの姿勢が問われるし、腕の見せどころ（？）でもあるし——

また、カウンターサービスの根本は、同じだという事。常に、自分の前の利用者が、今、何が欲しいかをキヤッチできる事、それが図書館に勤める者の役目だ。

利用者に必要な資料を渡したり、紹介したり。インタビュしてゆくうちに、利用者が、実は見たい物は、他のものだったことが、利用者自身で分かったりして。

これだけ、いろんな、カウンターを経ってきた今、本当に、心から思うのは、サービス業っておもしろい！ということ。（売るわけじゃないから甘いと言われようとも）仕事でやってるだけなのに、お礼なんて言われちゃうと、いいのにも思えないながらも、うれしくなってしまう。この単純さ。

常に、相手の身になって考えられる。やわらかい心を持って、毎日を過したい。

また昨年から、図書館と書店、取次、出版者の方たちと、出版・流通の勉強会をしている。

今までに、二度の勉強会を開き、幸い盛況だった。

第一回は、昨年の秋、出版ニュース社の清田さんのお話をきかせていただいた。第二回目は、今年の五月に、

「出版社の知りたい、図書館の本の選び方。図書館の知りたい、本の値段の決まり方」という題で、成田市立図書館の鏑木さん、出版側からは、みずす書房の相田さん他。

この会のきっかけは、図書館問題研究会で出版・流通が、初めて分科会になり、その席上、自由に何らかの勉強会を続けたいという声があがり、今日に至っている。

お互い「本」を、扱う仕事ながら、業界を越えた人と、これまで話した事がなかった。お互いの、状況を知る事により、何かしら改善できる点が、あればよいのだが。歴史ある業界、すぐに変える事は、むずかしいだろうが、ほんの少しでも、何かが変わればと思いつながら、集まりを持っている。

みずす書房の持谷さん、吉川弘文館の横井さん、思文閣の川島さん、などには、いつもお世話になっている。

公共図書館は、大学や専門図書館と違い守備範囲が広いので、選書がむずかしい。その割に、具体的な選書方針をしっかりと立て購入してる所は、少ないのではないだろうか。選書に関する勉強も足りないように思う。あまり

にも分野が広すぎ、方策が立っていないのが多くの図書館の現状であろう。

出版情報も、見きわめがむずかしく、出版前の情報はなかなか入手できない。いきおい出版社、著者、値段、厚さなどが買う時の決め手になっている。パンフレット類は図書館でかなりいただくので、目を通しているが、知らない分野はむずかしく、キチンと選んでいるか不安にもなる。そのためにも、勉強会は続けたい。

終わりに

市立図書館へ移って、数カ月、幅のある選書をし26万都市の図書館として、棚ぞろえを考えてゆきたい。

サービスの面では、あたり前の事が、きっちりできる図書館になればと思う。安心して、いつでも使いやすい図書館が、理想だけれど。時間がかかるだろう。

サービスをシステムとしてとらえ、品の高い（利用者の方々が満足ゆく）サービスを常に提供できる図書館でありたい。そう思いながら図書館の仲間と働いてゆくつもりだ。

では、皆様、カウンターで、お会いしましょう！

氾濫する分類

思想書を棚に並べるために、その分類をおこない、それにしたがって配列するということは、他のジャンルと異なるわけではない。人文書のどの分野の分類でも大きく二つに分けられる。それは総論と各論といわれている分類である。総論は、いわばその分野の全域にわたるようなもので、通時的な内容のものである。例えば哲学でいえば、辞（事）典、講座もの、概論、哲学史全体といった類のものである。各論の場合には、概論的な配列の中で、それぞれの項を扱う、共時的ともいえるものである。論理学、自然学、倫理学といった分類は、アリストテレスにはじまり、ヘーゲルも採用している。

当店の場合にも、大体はそう大きく区分けをし

東京堂書店
佐野 衛

ている。哲学の総論とは、いま述べたように、事典、講座、概論といったもので、他の分野にまぎれようもないので、扱い易いといえる。しかし、各論になると隣接分野との関係上扱い難い場合がしばしばみうけられる。論理学といっても、古典論理学だけを解説、研究したものはほとんどない。分析哲学以後の記号論理学や数理論理学からの立場のものが多く、数学基礎論と共通している。そうした場合、数理系の出版社のものまでは、哲学の棚に入れないというのが、多分書店の不文律になっていると思う。

自然学といっても、これもまた、アリストテレスからヘーゲルまでといったものではなく、いつてみれば科学

論とか、科学哲学といわれるものである。当店ではこの分野のものは、倫理学の次に配列している。多分この順序は、当店だけのものではないと思う。しかし、この順序でいくと、「論理学」と「倫理学」が隣接してしまう。「論」と「倫」しか違わない上に、この二字もまた似ているので、「論理学」の文献を探しているのに、いつの間にか「倫理学」を見ているといったことがしばしばおこってくる。補充の棚差しをしても、時々間違えて倫理学の中に一冊だけ論理学が入っているなどということもある。この点については、検討中である。中には検討しなくてもなかなか結論のつかない問題もある。

近年、学際的指向が顕著になるにつれて、分野の区分も明確にできない場合が多く、殊にポスト・モダン以後の書籍に配列上の問題が残る。それ以前の著作にしても困ってしまう場合がある。例えば現象学の棚といって明示しても、「現象学的社会学」とか「現象学的精神分析」といったもので、その箇所に集めると「社会学」や「精神分析」との兼ね合いがむずかしい。書店の店員は学者ではないわけだから、厳密なことはわからないし、もし厳密化などしたら、学派のかたよりによる配列になって

しまうだろう。これは、公平に書籍を販売するという原則（？）にそむいてしまうことになる。とりあえずは、並列的（共時的）に陳列することを第一としていく。

結局は、折衷的というか、単なる習慣というか、羅列というか、とりたてて問題にされると困ってしまうような配列に落ち着くのである。「現象学」といっても、フッサールの著作が多いので、とりあえず、フッサールは別項目として除く。そこには「現象学」の研究書が入られる。肝心のフッサールは著者別の棚を別に設け、そこに哲学者の年代順（通時的）に並べられる。

ここまで事実をありのままに考えてみると、「研究書」と哲学者の「著作」といった区別がおぼろ気ながら浮かんでくる。つまり、「研究書」はジャンル別で、それは論理学、倫理学、科学哲学といったカテゴリーで集約しておく。しかし、ここでもまた困った問題がおこる。いま述べた「現象学」などは、この三つのカテゴリーの中には入らない。「構造主義」もまた入らない。要するにアリストテレスやヘーゲルの分類したような哲学構成には入らないということで、これは歴史の流れからいって、当然といえば当然のことである。またベルクソンやディル

タイの「生の哲学」などというのも同様である。そして、これらの学派は、はじめに述べたような総論の中にも入り切らないといえるであろう。棚配列では、各論に入ることになるのだが、こうした各論の内容が総論の中にはないという奇妙な実態があらわれてくる。こうして、あらためていろいろ考えてみると、図書館十進分類法、書店の店頭ではあまり役に立たない。人文図書目録刊行会の「哲学・思想図書目録」を参照してみよう。

ここには、三つの大分類がある。「哲学」、「思想」、「宗教」がそれである。目次の内容をみてみると、それぞれやはり、総論と各論になっているようである。「哲学」では、概論的な特徴が強く、「思想」は、時代配列的になっている、「宗教」になると、どうしたことか、宗教一般のなかにも、その他の宗教の中にもキリスト教という項目がない。「思想」の中の「ヨーロッパ・アメリカの思想」の中に入ってしまったている。凡例をみると、仏教書は「仏教書総目録」に、キリスト教は「キリスト教書総目録」にそれぞれ収録してあると、ただし書きがついている。つまり、宗教の中でも仏教とキリスト教は、その出版点数が多いため、別扱いになってしまったのである。

確かに、大方の書店でも、仏教書はかなりの量があると思う。これは、仏教書専門の出版社が何社かあることも関係しているはずである。それでも刊行会目録に従った配列が店頭向きであると思われる。しかし、講座、全集、シリーズといったものを、そうした配列の中に入れてしまうと、かえって見難くなってしまうのでそれらは量も多いことだし、棚を別に設置している。

以上をまとめてみると、当店では人文書は次のようになる。まず概論的な棚があり、そこに総論と各論の順に配列される。次に「研究書」の類の書籍がくることになるが、この研究書は、哲学者や思想家に關してのものである。プラトンについてのものとか、カントについてのものといった研究書なので、これは対象になっている思想家の年代順に配列された研究書群ということになる。この場合、すでに述べたように、「現象学」の研究書の中にフッサールが入らない。「著作」は更に「研究書」と区別する場合が多い。しかし、「著作」は、ほとんどが「現代思想」といわれるジャンルの思想家のもので、例えば、このフッサールとか、メルロー・ポンティ、ハイデガー、フーコー、ドゥルーズ等々といった人々に集中す

る。それ以前の思想家の著作は、名著、全集、シリーズの中にあるのが実態なので、そうした棚を見ていただくことになる。人文系の古典的著作は、岩波や中公の文庫更には講談社の学術文庫に収録されているので、文庫売場をみていただくということになる。

ということ、いかにも考えて分類し、配列しように書いてはみたものの、ハッキリ言って現代思想の棚に關していえば支離滅裂である。とにかく、刊行されたものが、次々にその棚に差し込まれていくわけで、その内容のめまぐるしさに担当者もついていけないこともある。棚に差し込んでいるうちに、同じ著者のものが数点あると、それをまとめておくといった程度で、更にまとまった場合には、その著者名を表示するようにしている。

る。もちろん新刊については、平積するぐらいの冊数の書籍も入荷するわけだから、どこかに平積しなければならぬ。当店ではレジ回りに比較的目立ちやすい平台を設置して、そこに新刊を平積しておく。その一冊を該当の棚に差し込む。

書店の場合、人文書という、いかにも人間の知恵に関する書籍を扱っているとはいえず、高額本がレジを通らないまま棚から姿を消すことがよくある。大きな辞・事典とか、大著作といったものは要注意ということになる。実際当店では「ヘーゲル事典」というのが何度か姿を消してしまった。こうしたことから、その類の書籍は、棚配列とは全く関係のない、レジの近くの棚に配置されている。

ニッポンはこのままではダメになる／信高信と22人の直言対談

日本出直し白書

佐高信

最新刊
・一八〇〇円

伊東正義・岩國哲人・内橋克人・江田五月・大塚達生・奥村宏・小邦宏治・川人博・塩沢由典・島田裕己・杉浦日向子・杉原幸子・竹内洋子・田勢康弘・田中秀征・長岡實・深田祐介・藤原作弥・前田哲男・山口比呂志・横田濱夫・渡邊一雄

その道のプロ22人に「日本出直し」の処方箋を問う！

佐高信の本

日本会社白書●1380円

企業原論●520円

現代疑獄調書●600円

当世企業案内●520円

佐高信の筆刀両断●680円

会社は誰のものか●480円

社会思想社

(定価税込)

東京都文京区本郷3-25-13

☎03-3813-8101(代表)

学術的な分類、お客の見易さ、それから書店の都合と
いった「三つ巴」の争いが日々くり返されているのであり、この三つ巴の要因の不調和が、それぞれの立場で不満をもたらすことになる。しかし、結局は、書店である。したがって、見易さ、探し易さをモットーにして、今日も一日が始まるのである。

最後は、問い合わせの対処である。この対処のために、書籍総目録はもちろん、各社の目録を五十音順に整理して、いつでも調べられるようにしている。出版社は、新しい目録ができた時には、必ず、サンプル程度でもいいから送ってほしい。そのことが結局は、その出版社の出版物の販売にもつながることになるはずである。問い合わせは様々なケースがあり、目録がないと実際店頭に入っている目録を探し出せない場合もある。通常検索システムでは、タイトル、著者、出版社は欠かせないものなのだが、問い合わせに、この三要素が備わっているケースは少ない。そんな時、目録の巻末に著者索引があると便利である。

書店としては、レファレンスが多ければ多い程、問い合わせに正確に応じられるという、これまた常識的な結論に落ち着くということである。

■お願い

人文会では、二年に一度会員社の最新一年間の「人文書常備冊数」、「人文書売上冊数」及び「常備社数」を基礎データに特約店の選定をさせていただいております。しかし、せっかく会員社の人文書を相当量販売されても、売上カードの送付が無いため、基礎データ不足として特約店の選定から洩れてしまうことがあります。お手数と存じますが、何卒各会員社への送付協力を賜りますようお願い申し上げます。

調査研修委員会

近代思想との格闘——この十年の果実

法政大学名誉教授 浜田 義文

1 哲学探求の絶好期

現在私たちはいかなる思想状況の中に立っているのだろうか。哲学思想を中心にして見渡すとき、国内国外を問わず、圧倒的影響力をもつ、特別目立つ大きな思想家や思想的立場は、現在見あたらないうように思われる。無数の思想が併立し競合し、相互に無関心、没交渉であることも珍しくない。それほど現在の思想傾向は多種多様であり、最有力の思想を特定することは困難である。百花繚乱とも、あるいは玉石混淆ともいえよう。これは商業主義的な情報化社会における思想のあり方を示しており、そこではいかなる思想も特権的位置を主張しえず、

相対化を免れない。

それだけでなく、最近の世界情勢の予想を絶する激変が思想界に直接間接の影響を与え、現在の思想動向の不透明さを一層強めているとみられる。東西ドイツの統一、ソ連邦の解体、東欧社会主義圏の崩壊、それに伴う世界の長年の冷戦的二極構造の根本的変化といった事態が、今後の思想的展開をかえって見通し難しくしている。それは諸問題の解決というより、むしろ新しい困難な時代の開始ともみられる。

しかしそうした世界情勢の大変化の中で、無数の異なる民族や国家が、さらに人間以外のすべての生物をも含めて、一つの世界、一つの地球の住民として同じ運命を

共有しており、人間相互間で、また他の生物との間で、いかにして共存と共生の調和的秩序を実現するか、という課題との取り組みの必要が痛感されつつある。現状は当面、旧体制崩壊後の近隣諸民族間の憎悪の激化や殺戮の拡大、あるいは人間の利己的で放恣な自然破壊の横行、といった否定面が露呈しているが、それだけに哲学思想の観点からの事態の冷静な注視が必要である。そしてそれは人間存在のトータルなあり方への根本的洞察に立脚するものでなければならぬだろう。

こうした時代の動向の中で、現在の一見権威不在とみえる多様化した思想状況をどう見るかは、人によって異なるだろうが、私は少しも嘆くにあたらず、むしろ哲学思想の着実な探究にとって絶好機と考える。一、二の思想が非常に有力で、それにとびつくのでは、思想を真に我が物として深めることはできない。思想の獲得は、各人が自分の生活経験と問題関心に従って苦労しながら探究しなければならぬ。模索や迷いが伴うだろう。さまざまな異なる、または対立する思想的立場に対して眼を開くだけでも大したことである。一つの立場への軽信や惑溺は思考の狹隘さや硬直性と結びついている。精神の

開放性と柔軟性が大切である。広い視野をもってさまざまな思想との開かれた対話として探究を行い、それによって徐々に一つの思想と深く関わりをもつようになるのが最も望ましい。

さてここでは現代日本における西洋近代思想との取り組みについて、主要な文献をあげながら案内することにする。現在、西洋近代思想の研究が非常に盛んである。そこには現代思想と密接に繋がる近代思想に遡って、現代を根本的に考えようとする関心が働いている。近代思想を絶対視せず、多面的角度からのその批判的捉え直しを通じて現代思想を豊かにし、未来への広大な展望を獲得しようとするのである。以下の案内は網羅的でなく重点的であり、最近十年間に限られる。また筆者の関心によりドイツ観念論に重点がおかれる。

2 モンテーニュと現代

初めに、一九九二年歿後四百年を迎えたモンテーニュについて、僅かだけでもふれておきたい。モンテーニュは言わずと知れた『エッセー』の著者であり、それは関根秀雄訳（白水社）以来六十年にわたり日本の読者に親しま

れており、原二郎訳（岩波文庫）もある。歿後四百年記念として、関根・斎藤訳『モンテーニュ旅日記』新版（白水社）が出版された。オーロット、荒木昭太郎訳『モンテーニュとエッセー』（クセジュ文庫）が最新の案内書として適当であろう。

私がモンテーニュをここであげるのは、その思想の二大核心とみられる「開かれた精神」と「自然への随順」という考え方こそ、現代の私たちによって特に反芻され吟味さるべき思想と考えるからである。「開かれた精神」とは、宗教戦争の動乱の時代を生きたモンテーニュの、敵味方を問わず普遍人間的なものを重んずるユマニスムの心的態度にはかならない。モンテーニュの懷疑と言われるものも、対立する思想的立場に十分耳を傾け、性急な断定を戒める、という慎重さ及び寛容さと堅く結びついている。また「自然への随順」とは、知識を万能視する人間の傲慢を斥け、自然界の一員として他の自然物と共存し自然の秩序に順応して生きる人間の自足した生き方を意味する。その思想と生き方は誠実な自己吟味に支えられており、いつの時代にも深く呼びかける力をもつが、今日特に傾聴に値する。

3 ベールから啓蒙思想へ

野沢協訳『ピエール・ベール著作集』（法政大学出版局）についても、ふれないわけにいかない。第一巻が一九七八年に出版されて以来、各巻とも膨大な量の翻訳が一人の訳者によって遂行され、着実に巻を重ね、九二年第七巻『後期論文集Ⅰ』が刊行された。各巻に詳細綿密な訳注と解説が付されている。残るは最終第八巻のみであり、完結したら画期的偉業であることは疑いない。ベールの著作は一般読者になじみが薄いかもしれないが、その重要性は知っておく必要がある。ベールは十七世紀フランスの哲学者であり、宗教的異端の排除が苛酷であった時代に、理性的立場から信仰の自由と寛容のために精力的に奮闘した。無神論者や異教徒について、彼らが道徳的行為において正統的キリスト教徒に劣らず立派でありうると弁護した。そこには宗派を越えた普遍人間性への強い信頼と、さまざまな異なる思想的立場を広く公平に評価する旺盛な批評的精神があり、十七・十八世紀ヨーロッパ思想に重要な影響を及ぼした。

そのリベラルな思考をひきつぐ形で、フランス啓蒙思

想が展開するが、その中心人物がヴォルテールである。彼の代表作、高橋安光訳『哲学辞典』（法政大学出版局・一九八八年）と、安斎和雄訳『歴史哲学』（同上・一九八九年）が相次いで出版された。達意な翻訳によって我々はヴォルテールの旺盛な批評精神に接することができる。

『ライプニッツ著作集』（工社社・一九八八年以降）が現在刊行中であることも特筆に値する。ライプニッツは十七世紀後半から十八世紀初めに生きたが、時代を越えた洞察を示し、自然及び世界と有和する独創的で普遍的な思想体系を樹立した。今日改めてその巨大な思想的意義が再発見されつつある。第一巻澤口昭聿訳「論理学」、第六、七巻佐々木能章訳「宗教哲学（弁神論）上・下」、第八巻西谷・竹田他訳「前期哲学」、第九巻西谷・米山訳「後期哲学」、第十巻山下・小林訳「中国学・普遍学・地質学」が既刊である。これとは別に、ライプニッツ著、米山優訳『人間知性新論』（みすず書房・一九八七年）がある。これはロック『人間知性論』への批評であるが、経験論者と合理論者との対話の形式で、哲学の基本的問題が興味深く論じられている。口語体の翻訳が精確で親しみ易い。最近の研究動向をふまえた、充実した重量感の

あるライプニッツ研究書として、酒井潔著『世界と自我』（創文社・一九八七年）があげられる。

4 カントとドイツ観念論

さてカントとドイツ観念論に目を転じよう。最近の日本でこの方面の思索と研究は非常に活発であり、一大勢力をなしていると言つて過言でない。しかしなぜ今カントであり、ドイツ観念論なのか、と疑問に思う人もいよう。ドイツ観念論といえば、一時期、実証主義的科学主義的思想傾向の抬頭の前に、影が薄れたばかりか、過去の思想として片付けられそうになったこともある。そこには強い思弁的傾向への反発もあつただろう。しかしその哲学的遺産を無視することによって自分自身が貧困化せざるをえない。現在この反省の中で近代思想の見直しが迫られているのであり、我々がドイツ観念論と真剣に取り組むならば、その思想的豊饒性に改めて驚くのである。それが現代思想の有力な思想的源泉であることは確実であり、そこから何を汲みとるかは探究者自身の力量にかかっている。それには従来の固定観念をふみこえて新しい解釈へ進まなければならない。それによって新し

い思想的展望も開かれるに違いない。カントやドイツ観念論の研究の隆盛の理由をこう解することができる。ここではその一端を示すだけである。

まず廣松渉・坂部恵・加藤尚武編集『講座ドイツ観念論』全六巻（弘文堂・一九九〇年）があげられる。第一巻「ドイツ観念論前史」、第二巻「カント哲学の現代性」、第三巻「自我概念の新展開」、第四巻「自然と自由の深淵」、第五巻「ヘーゲル——時代との対話」、第六巻「問題史的反省」から成る本講座の出版は、日本のドイツ観念論研究史上画期的と言えるだろう。現代日本の多数の第一線研究者が結集しているだけでなく、その研究成果が三人の編者によって有機的に組み立てられ、ドイツ観念論の全体像を多角的多面的に照らし出す工夫がこらされている。その特色は、ドイツ観念論について、従来の固定化した通念的理解を越えて、現代的関心のもとに広い視野と様々な思想的連関の中で、生き生きとダイナミックに新しい姿を浮かび上がらせようとするところにみられる。内外の最新の研究成果をふまえて考察が展開されており、それぞれ刺激的で示唆的である。本講座は今後の研究と思索の進展のための礎石となるに相違なく、読者

は自分の関心に従ってその中から随意に論文を取り上げ、それを手がかりにして考えを進めることができる。

5 カントへの現代的関心

次にカントに絞ってみると、手頃な一般向の案内書として、浜田義文編『カント読本』（法政大学出版局・一九八九年）があげられる。これはカント哲学の主要問題を全体にわたって広く取り上げ、夫々の研究者の多面的考察を通じて、カント哲学の全貌を示すことを目指している。理解し易さを心がけながら最近の研究成果がとりこまれている。異色の概説書として、グリガ著、西牟田・浜田訳『カント』（法政大学出版局・一九八三年）がある。著者は旧ソ連邦の哲学者だが、カントの人間と思想に深く傾倒し、生涯の興味ある叙述と重ねて、広い思想的連関の中で生彩に富むカントの思想像を描出している。ドイツの最近の要をえたカント書として、ヘッフェ著、戴木栄夫訳『イマヌエル・カント』（同・一九九一年）がある。著者は現代的関心のもとにカントの斬新な全体的理解を示そうとしている。ヘッフェには他に、青木隆嘉訳『倫理・政治的ディスクール』（同・一九九一年）があり、

現代の切実な倫理的問題を論じている。

最も標準的で信頼できるカント概説書として、カッシーラー著、門脇・高橋・浜田監訳『カントの生涯と学説』（みすず書房・一九八六年）をあげねばならない。邦訳はこれが最初だが、初版は一九一八年で、多くの年月の経過にも拘らず、今日でも最良のカント書として定評がある。広い視野のもとにカントの人間と思想の全体像が的確に描かれており、現代思想との繋がりでも示唆に富む洞察が多く含まれている。なおカッシーラーの著書、『シンボル形式の哲学』第一巻「言語」（生松・木田訳）、第二巻「神話的思考」（木田訳・いずれも岩波文庫、第三巻未刊）があり、これとの関連で読むこともできる。

ヒンスケ著、石川・小松・平田訳『現代に挑むカント』（晃洋書房・一九八五年）は、一般向にカントの現代的意義を力説している。彼はカントのブルラリズムの考えを重視する。それは、自説を絶対化せず、他人の異なる観点からも吟味するという「視野の広い考え方」を意味し、各人の制限された理性を、普遍的人間理性に連なるものとして評価する見方である。人々の対話的探究によって思想的世界は豊かになるのであり、それと対照的に党派

性に固執するマルクス主義の教条主義的思考は貧困化し分裂せざるをえない、とヒンスケは言う。アーレント、浜田監訳『カント政治哲学の講義』（法政大学出版局・一九八七年）は、カントの政治哲学を『判断力批判』第一部の中に読み取るうとする独特な書物である。その企図の背後には、カントのブルラリズムとそれに繋がる共通感覚の考えに対する、アーレントの注目があり、それが政治哲学の新天地を切り開くと考えている。新しい思想的脈絡の中でのカント解釈の試みとして示唆的であるが、問題提起とみるべきであろう。このアーレントのカント論を受けつぐ形で、カント社会哲学の新しい把握を企てる意欲的研究として、知念英行著『カントの社会哲学』（未來社・一九八八年）がある。

さらにカント文献の紹介を続けるが、その前に、理想社版『カント全集』第十三巻「歴史哲学論集」小倉志祥訳（一九八八年）についてふれる。この翻訳をもって全集全十八巻の出版が完結した。じつに二十年以上の年月が経過したが、偉業というべきである。ここでは「歴史哲学論集」にのみ言及するが、それは「ヘルダー論評」や「学部争い」など、本邦初訳の重要論文を収録するほ

か、詳細綿密な訳注・解説三三一ページを含み、全八二一ページの名著である。カントの歴史哲学論文は多方面と関連しており、今後研究の大きな展開が期待されるだけに、この翻訳が与える恩恵は大きい。なお、カントの歴史哲学を全面的に取り扱った研究書として、佐藤全弘著『カント歴史哲学の研究』（晃洋書房・一九九〇年）がある。

日本の主要なカント文献として、高峯一愚著『カント実践理性批判解説』（論創社・一九八五年）、同『カント判断力批判注釈』（同・一九九〇年）をあげねばならない。これには同『カント純粹理性批判入門』（同・一九七九年）が先行しており、三著揃って高峯カントの完成とみられる。カント三批判の注解という形をとって、著者は長年の研究によって自らの血肉と化したカント思想を、親しみ易く味わい深く示してくれている。貴重な労作である。

また、量義治著『宗教哲学としてのカント哲学』（勁草書房・一九九〇年）は、書名の示す通り宗教哲学をカント哲学の中心に据えてその新しい姿をとり出そうとするユニークな試みとして注目される。

最近の日本のカント研究の勢いを示すものとして、新

進及び中堅の気鋭の研究者たちから成る「カント研究会」の研究成果があげられよう。既に「現代カント研究」叢書として、大橋・中島・石川編『超越論哲学とはなにか』（理想社・一九八九年）、牧野・福谷編『批判的形而上学とはなにか』（同・一九九〇年）、平田・渋谷編『実践哲学とその射程』（晃洋書房・一九九二年）、松山・犬竹編『自然哲学とその射程』（同・一九九三年）の四冊が刊行されている。読者はその中の収録論文によって新しい研究主題と動向に容易に接しうるし、その考察から多くの示唆と刺激をうけるだろう。そこにはカント関係新刊書の書評と詳細な文献目録も掲載されている。

注目すべき充実したカント研究書は少なくないが、ここでは次の二冊のみをあげておく。久保元彦著『カント研究』（創文社・一九八七年）、牧野英二著『カント純粹理性批判の研究』（法政大学出版局・一九八九年）。前者は、周到精密な思索と学問的純粹性・徹底性の点で模範的である。後者は、『純粹理性批判』の全体を急所において把握する研究の広さと深さにおいて、また他の研究成果の入念な吟味の中で自説を展開する対話的精神の旺盛さにおいて卓越している。

フィロネンコ著、中村博雄訳『カント研究』（東海大学出版会・一九九三年、原著一九八二年）は、フランスのカント研究の第一人者の著書の翻訳として注目される。カント哲学の全範囲から主要問題を取りあげ、今日的関心のもとの様々の思想的可能性を汲み取る努力を払っている。目的論的判断力の考察がかなりの分量を占め、思想的にはフィヒテとの関係についての論述が詳しい。

6 フィヒテ研究の推進

次にフィヒテについて見よう。隈元忠敬著『フィヒテ「全知識学の基礎」の研究』（溪水社・一九八六年）があげられる。本書はフィヒテ哲学の全体像を明らかにする観点からの、初期知識学についての本格的取り組みとして注目される。隈元氏にはフィヒテの右の著作の翻訳の他に、ラウト著『フィヒテからシェリングへ』（以文社・一九八二年）、同『フィヒテのヘーゲル批判』（協同出版・一九八七年）などの訳業があり、その一貫した着実な研究は日本のフィヒテ研究の推進役を果たした。フィヒテ、榊田啓三郎訳『フランス革命論』（法政大学出版局・一九八七年）は、若きフィヒテの歴史への積極的な関わりを示すもの

として看過されえないであろう。

7 ヘーゲル研究の盛況

ヘーゲル研究に目を移すと、研究者の層の厚さと研究の活発さが目をひく。カント研究の隆盛に比肩するが、ここではごく一部にふれうるにすぎない。まず注目されるのは、加藤尚武他編『ヘーゲル事典』（弘文堂・一九九二年）の刊行である。執筆者総数は百名にのぼり、日本のヘーゲル研究者のほとんど総結集とみられよう。小項目主義で編集され、本文五四六ページその他、参考文献一覧、ヘーゲル執筆年代表、日本語で読めるヘーゲル研究文献一覧、明治期ヘーゲル言及書誌が付される。その上ヘーゲル時代の度量衡や通貨換算率、通貨購買力まで記載する念の入れようである。関連項目が広く取り入れてあり、ヘーゲルへの関心を離れても、西洋近代思想事典として多面的に活用できそうである。もちろん完全とはいえないが、今後の一哲学者事典作成のための指標となることは疑いない。

ヘーゲル哲学への手頃な一般向案内書として、加藤尚武編『ヘーゲル読本』（法政大学出版局・一九八七年）があ

げられる。これは前掲『カント読本』と対をなすもので、ヘーゲル哲学の様々な主題について多数の研究者による多面的考察を通じて、ヘーゲルの全体像を興味深く示そうとしている。加藤・安井・中岡編『ヘーゲル哲学の現在』（世界思想社・一九八八年）は、多数の研究者が分担して、ヘーゲル哲学の特徴を近・現代の諸思想家との対比において示すと共に、体系・方法・弁証法・倫理・芸術・宗教などの主要テーマについてその今日的意義を考察している。中埜肇編『ヘーゲル哲学研究』（理想社・一九八六年）は、自らの問題意識に立脚した十二人の研究者の、独自のテーマについての掘り下げたヘーゲル研究の集成であり、読者はそこから様々の問題と示唆を汲み取ることができるだろう。ベゲラー編、谷嶋喬四郎監訳『ヘーゲルの全体像』（以文社・一九八八年）は、現代ドイツの有力な研究者たちによる、ヘーゲル哲学の全体像についてのバランスのとれた充実した論考である。最新の研究成果に基づく、水準の高い概説書といえる。

『精神現象学』について、コジェーヴの有名な解説の翻訳が出版された。上妻・今野訳『ヘーゲル読解入門』（国文社・一九八七年）。抄訳だが、解説・索引を含めて四九

二ページの大冊であり、研究者に大きな便益を与えよう。若きヘーゲルの教授資格論文の待望の完訳、村上恭一訳『惑星軌道論』（法政大学出版局・一九九一年）が出版された。詳細な訳注と解題が付され、読者の理解を助ける工夫がされている。ヘーゲル著作の新訳の試みとして、三浦和男他訳『法権利の哲学』（未知谷・一九九一年）をあげよう。「法権利」の訳語にみるように、翻訳に独特の大胆な工夫がみられる。ヘーゲルの難解な用語を我々の理解し易いものにする努力は貴重だが、しかし例えば「習俗規範」の訳語の方が従来の「倫理」よりも勝るかどうかは、なお今後の検討が必要だろう。全部で一四〇ページに及ぶ「訳者まえがき」「用語解説」「解題」など貴重である。

多くの注目される研究書の中から僅かだけあげる。山口祐弘著『近代知の返照』（学陽書房・一九八八年）は、著者の長年の精神を傾けたヘーゲルとの取り組みの、充実した成果を示している。著者はヘーゲルと共に分裂の時代を生き、哲学的反省の徹底によるその克服を目指している。山口誠一著『ヘーゲル哲学の根源』（法政大学出版局・一九八九年）は、「精神とは何か」という根源的問いの

次元において『精神現象学』の核心に迫ろうとする。自ら定めた目標に向かって粘り強い思索を積み重ねる堅実な労作である。佐藤康邦著『ヘーゲルと目的論』（昭和堂・一九九一年）は、論じられることの少ない主題について、現代的関心のもとにその積極的意義を論じている。

また小林靖昌著『ヘーゲルの人倫思想』（以文社・一九九二年）は、著者の長年にわたるヘーゲル研究の集大成であり、特に良心論と市民社会論の考察に力が注がれている。加藤尚武著『哲学の使命』（未来社・一九九二年）は、ヘーゲルの社会・歴史・宗教観の多面的考察を通じて、現代における知識全体の見取図について自由自在に議論を展開しており、示唆に富む。

城塚・濱井編『ヘーゲル社会思想と現代』（東京大学出版会・一九八九年）は、城塚登氏門下の第一線の研究者たちの勢揃いした論文集として壮観である。共通の大枠の中で様々の論題が自由に論じられ、多彩で魅力的である。現代日本のヘーゲル研究の水準の一端を示すものとなっている。

最後に、金子武蔵著『精神の現象学への道』（岩波書店・一九八九年）をあげる。これは、『精神の現象学』の翻

訳及び注解に代表される輝かしい業績によって、日本のヘーゲル研究の大道を切り開いた著者の遺著である。最後までヘーゲル研究に全力を尽くした著者の姿をここに見ることができる。

8 自然哲学の復権

ドイツ観念論との関係で、最近の自然哲学への関心の高まりについて、ぜひとも一言する必要がある。ドイツ観念論の中で特にシェリングに頭著にみられるように、自然哲学は体系中の重要部分をなすにも拘らず、自然科学の勢威の前に長らく無視または軽視されてきた。しかし今や近代自然科学思想の根本的見直しの気運と共に、ドイツ自然科学の重要性が改めて認識されつつある。それは近代科学思想と密接に連繋しており、前者は後者を支え推進する役を果たしており、両者が乖離したとき科学思想自体の衰弱をもたらした。その反省に立って現在、ドイツ自然哲学との積極的取り組みが着手され、注目すべき成果を収めつつある。

その一端は、前掲『講座ドイツ観念論』中にもみられるが、代表的著作としてここで、松山寿一著『ドイツ自

然哲学と近代科学』（北樹出版・一九九二年）をあげる。著者は、ドイツ自然哲学（カント、フィヒテ、ヘルダーン、シェリング、ヘーゲルなど）と近代科学思想との交渉を、様々な主題に関して詳細に考察し、自然哲学の思想的豊かさを掘りおこしている。それによって科学思想史の幅広さと奥行の深さが理解され、さらに現代科学思想に対する根本的検討を迫るものになっている。既に日本で「自然哲学研究会」が組織され、機関誌「自然哲学研究」（第六号一九九二年十二月）が刊行されている。

9 イギリス思想研究の現状

最後に、イギリス思想関係を一瞥しよう。日本イギリス哲学学会企画の「イギリス思想研究叢書」（御茶の水書房）として、田村秀夫編『トマス・モア研究』（一九七八年）、田中（正）・平野編『ジョン・ロック研究』（一九八〇年）、田中浩編『トマス・ホブズ研究』（一九八四年）、行安・藤原編『T・H・グリーン研究』（一九八二年）、斎藤・田中（敏）・杖下編『デイヴィッド・ヒューム研究』（一九八七年）、杉原・山下・小泉編『J・S・ミル研究』（一九九二年）などが次々に刊行されている。様々の分野の研究

者の協力する学際的共同研究であり、いずれも充実していて、日本の当該研究の水準を示している。

新井・鎌井編『信仰と理性』（御茶の水書房・一九八八年）が、「ケンブリッジ・プラトン学派研究序説」として注目される。十七世紀の同学派に属する主要な思想家たちの論説を選択・抜粋して翻訳し、解説を付している。本邦初の試みであり、第一着手と思われるが、イギリス思想のより深い理解のために役立つであろう。十八世紀初頭市民社会における利己心の役割を大胆に肯定して、当時の道学者たちを憤慨させた痛快な書物、マンデヴィル著、泉谷治訳『蜂の寓話』（法政大学出版局・一九八五年）がまず上巻完訳された。中野・海保訳『スウィフト政治・宗教論集』（同・一九八九年）は、『蜂の寓話』と同時代のイギリス社会の風潮を痛烈に風刺している。さらにハチソン著、山田英彦訳『美と徳の觀念の起原』（玉川大学出版部・一九八三年）が重要である。これは思想的にマンデヴィルと真反対の利他主義の立場に立ち、十八世紀の新しい美学・倫理学思想の道を切り開いた。いずれも訳者の十分な研究に裏付けられた、信頼できる翻訳である。

アダム・スミスの研究も、歿後二百年記念（一九九〇

年)に刺激されて、ますます盛んである。現在ではスミスの経済思想は道徳哲学的観点と切り離しては論じられず、学際的研究傾向を強めている。ここでは、広い社会思想的観点のもとに、スミス正義論の内容と意義について縦横に論じた、卓越した研究として、田中正司著『アダム・スミスの自然法学』(御茶の水書房・一九八八年)だけをあげる。その充実した内容は多方面へ多大の学問的刺激と示唆を与えるだろう。関連する共同論文集に、田中正司編『スコットランド啓蒙思想研究』(北樹出版・一九八八年)がある。

十九世紀については、ウィリー著、米田他訳『十九世紀イギリス思想』(みすず書房・一九八五年)がある。行安茂編『H・シジウィク研究』(以文社・一九九二年)が本邦最初の本格的シジウィク研究として注目される。「現代正義論への道」という副題がついており、ロールズ著、矢島鈞次監訳『正義論』(紀伊國屋書店・一九七九年)その他との繋がりについても論じられている。

なお最近刊の、浜下昌宏著『18世紀イギリス美学史研究』(多賀出版・一九九三年)が、待望の美学通史としてだけでなく、広く社会・倫理思想との密接な関連をもつ丹

念で着実な美学思想研究の集大成として、注目に値する。

参考文献——本文中にあげたものは省く。主題毎に大別し、日本人の著書在先、翻訳書を後にし、著者名のアイウエオ順に並べる。

〔モンテーニュ関係〕

○荒木昭太郎『モンテーニュ遠近』(大修館書店・一九八七年)

○竹田英尚『モンテーニュ思考と作品の様式とその進化』(白水社・一九八九年)

○三宅中子『習慣と懷疑』(南窓社・一九八五年)

〔ドイツ観念論全般〕

○里見軍之編『ドイツ観念論とデアレクティク』(法律文化社・一九九〇年)

○田村一郎『ドイツ観念論における「自律思想」の展開』(北海道大学図書刊行会・一九八九年)

○山口祐弘『ドイツ観念論における反省理論』(勁草書房・一九九一年)

〔カント関係〕

○有福孝岳『カントの超越論的主体性の哲学』(理想社・一九九〇年)

○井上義彦『カント哲学の人間学的地平』(理想社・一九九〇年)

○岩隈敏『カント二元論哲学の再検討』（九州大学出版会・一九九二年）

○大村晴雄『ヘルダーとカント』（高文堂出版社・一九八六年）

○小熊勢記『カントの批判哲学』（京都女子大学・一九九二年）

○小倉貞秀編『カントとドイツ近代思想』（以文社・一九九一年）

○小倉貞秀『カント倫理学の基礎』（以文社・一九九一年）

○川島秀一『カント批判倫理学』（晃洋書房・一九八八年）

○黒積俊夫『カント批判哲学の研究』（名古屋大学出版会・一九九二年）

○高橋昭二『カントとヘーゲル』（晃洋書房・一九八四年）

○中島義道『カントの時間構成の理論』（理想社・一九八七年）

○中島義道『モラリストとしてのカント』（北樹出版・一九九二年）

○量義治『カント哲学とその周辺』（勁草書房・一九八六年）

○山崎庸佑編『カント超越論哲学の再検討』（北樹出版・一九八七年）

○カウルバツハ、井上昌計訳『純粹理性批判案内』（成文堂・一九八四年）

○シュヴァルトレンダー、佐竹昭臣訳『カントの人間論』（成文堂・一九八六年）

○ドゥルーズ、中島盛夫訳『カントの批判哲学』（法政大学出版局・一九八四年）

○プラウス、中島（義）・渋谷・円谷・福田訳『カント認識論の再構築』（晃洋書房・一九九二年）

○ブラース、犬竹・中島（義）・松山訳『カントの自然科学論』（哲書房・一九九二年）

○マクファーランド、副島善道訳『カントの目的論』（行路社・一九九二年）
『フイヒテ関係』

ニーチェ全集『文庫版・全15巻』刊行開始！

▲第9巻・第10巻 吉沢伝三郎訳・解説

吉沢伝三郎 編集 ▲第8巻 信太正三訳・解説
▼定評ある翻訳 詳細な訳註
▼価格は税込定価

好評既刊

ツァラトウストラ

（上）（下）

神の死を宣告し、永遠回帰思想を説くニーチェの最高傑作。上1100円・下1600円

悦ばしき知識

ニーチェの思想の光と影が、南仏の華やかな情趣と融けあい明滅する詩唱・アフォリズム。1300円

筑摩書房

〒111 東京都台東区蔵前2-6-4

○ヘンリッヒ、座小田・小松訳『フィヒテの根源的洞察』（法政
大学出版局・一九八六年）

○ヤンケ、隈元他訳『フィヒテ存在と反省』上巻（哲書房・一
九九二年）

〔ヘーゲル関係〕

○佐々木孝洋『若きヘーゲルの思索』（九州大学出版会・一九八
四年）

○笹澤豊『ヘーゲル哲学形成の過程と論理』（哲書房・一九八三
年）

○藤田正勝『若きヘーゲル』（創文社・一九八六年）

○廣松渉『ヘーゲルそしてマルクス』（青土社・一九九一年）

○山田忠彰『ヘーゲル論』（批評社・一九八六年）

○アドルノ、渡辺祐邦訳『三つのヘーゲル研究』（河出書房新
社・一九八六年）

○ガダマー、山口・高山訳『ヘーゲルの弁証法』（未來社・一九
九〇年）

○ヘンリッヒ、中埜肇監訳『ヘーゲル哲学のコンテクスト』（哲
書房・一九八七年）

○リーデル、池田・平野訳『ヘーゲルにおける市民社会と国家』
（未來社・一九八五年）

○リーデル、高柳良治訳『体系と歴史』（御茶の水書房・一九八
六年）

〔イギリス思想関係〕

○板橋重夫『イギリス道德感覺学派』（北樹出版・一九八六年）
○神野懸一郎『ヒューム研究』（ミネルヴァ書房・一九八四年）
○篠原久『アダム・スミスと常識哲学』（有斐閣・一九八六年）
○舟橋喜恵『ヒュームと人間の科学』（勁草書房・一九八五年）
○渡部峻明『ヒューム社会哲学の構造』（新評論・一九八五年）
○モロウ、鈴木・市岡訳『アダム・スミスにおける倫理と経済』
（未來社・一九九二年）

〔近代思想史全般〕

○小倉志祥編『近代変革期の倫理思想』（以文社・一九八六年）

○アザール、小笠原他訳『十八世紀ヨーロッパ思想』（行人社・
一九八七年）

○ゲイ、中川他訳『自由の科学』Ⅱ（ミネルヴァ書房・一九八六
年）

○パウマー、鳥越輝昭訳『近現代ヨーロッパの思想』（大修館書
店・一九九二年）

浜田義文（はまだ・よしふみ）

一九二二年生

一九五〇年、東京大学文学部哲学科（倫理学専攻）卒業。
現在、法政大学名誉教授・法政大学大学院講師、文学博士
主要著書『若きカントの思想形成』（勁草書房）

『カント倫理学の成立』（勁草書房）
『カント読本』（編著・法政大学出版局）

『倫理学とは何か』（共著・慶應通信）
『イギリス道德哲学の諸問題と展開』（共著・慶應通信）

九三年度委員会活動について

委員長 福田晴行

販売企画委員会

去る五月二〇日、年次総会を開催し、九二年度の活動報告および九三年度の新体制を決定いたしました。新会員社として昨年の草思社に引き続き今年度も京都のミネルヴァ書房の加入が承認されました。会員社数は、計二十三社になります。

なお、代表幹事に菊池明郎氏（筑摩書房）、新たに書記に武一雄氏（雄山閣出版）、会計に古川清氏（青木書店）の両氏を選出いたしました。次に、各委員会の新委員長に今年度の活動予定を執筆していただきました。

前任の重光さん（創元社）を引き継ぎ今年度の販売企画委員長を命じられました。本委員会は人文会の各委員会の中でもとりわけ、現場の皆さまと密着した活動を行なっていく委員会であると思われます。ブックフェアの展開、セット企画、すべてが読者と書籍の出会いの場をつくるための活動です。皆さまのご意見を取り入れながら、当会の設立の目的の一つである『すぐれた人文書の普及・販売を積極的に推進する』ため、販売に携わる書店様、取次店様のお役に立てるような各種の企画を提案していきたいと考えています。

活動予定の主なものを挙げてみます。昨年に引き続いて「歴史書懇話会」と共同で作製した、年間刊行図書一覧『ブックリスト 1992』を利用しての店頭および在庫僅少本フェアの推進。また、店頭でのフェアと同時に、各書店の外商部門と連携しての公共図書館や大学図書館への販売促進。ふだんわれわれが、直接にお目にか

かることが少ないだけにこうしたカタログを介してのブックフェアは、昨年も大いに効果を発揮するとともに各図書館の皆様にも喜ばれました。

次に、人文会創立25周年記念事業の一つである『人文書のすすめ』（仮題）を利用しての販売促進も考えております。5年前に刊行された「人文科学の現在」は各方面から大きな反響を呼びました。一般の読者ばかりでなく、図書館や書店の方から強い要望は人文書の販売を進めるうえでの自信につながりました。今回はさらに、店頭での展示とも併せて企画してまいります。10月の刊行を予定していますので、フェアなどの開催のご意向をおもちの場合はぜひご一報下さいますようお願いいたします。

さらに、例年行なわれている人文書セットの効率化を検討したいと考えています。セットをお願いしている書店様への訪問、各取次店からのデータによる分析などによって、より効率の良いセット展示が可能になればと思っています。

最後に今年度の販売企画のメンバーを紹介します。販売企画をお考えの際はぜひ、各メンバーにお声をかけて下さい。

副委員長 清水 博（社会思想社）

委員 丸山 正実（平凡社）

“ 高橋 睦美（有斐閣）

“ 鈴木龍太郎（春秋社）

“ 杉田 啓三（ミネルヴァ書房）

調査・研修委員会

委員長 阿部 昇

去る五月二十日、第二十六回総会において、昨年に引き続き調査・研修委員長に選任されました。本年委員会を担うメンバーは、氏家副委員長、菅田委員、平石委員であります。本年度の委員会活動は、特約店様訪問と昨年度に引き続き研修会や懇談会を画し、準備することが主体となる予定です。

各版元が、単独で書店様を度々訪問することは、やはり限界があるため、会員社がまとまって効率よく訪問することを旨といたしております。

会員社は、人文書・専門書を発行する版元の集りで、担当者は各分野に精通する人達です。

新鮮な人文書と格調高い売れ筋の定番書目を品揃えることで、読者に魅力ある棚造りを目指しての意見や情報交換は、昨年度合同研修会を実施させていただいたアバンティ・ブックセンター様、八重洲ブックセンター様からも、大変ご好評をいただきました。

今秋十月には、神戸市、岡山市及び広島市を訪問させていただく予定で準備を進めております。

また懸案の関東近辺の特約店様との交流についても実現に向けて努めていきたいと考えております。

人文会の研修会は、特約店様との合同研修会の他に、会員社が業界の動きや情況を的確に把握する目的から、言わば自主研鑽を積むため関係識者を講師に招く等の内部研修会も実施しております。

最後になりましたが業界を見渡しますと、版元―取次―書店の所謂「正常ルート」での過剰供給、高返品率、諸経費の高騰、収益率の低下等、依然として続く厳しい状態や、出版V・A・Nの展開、バーコードの普及進捗状況、再販売価格維持制度の行方など様々な推移がありそうな様相です。これらについても適宜対応出来るよう活動していく考えです。

図書館委員会

委員長 市川 昭夫

図書館委員会の活動は今年で三年目を迎えます。

この間、いくつかの大学図書館や公共図書館の見学、図書館関係者と話し合う機会をいただきました。これらの機会をとおして、図書館の現状から、さらに選書、収書、利用面に及ぶ図書館業務まで多くのことを学ぶことができました。

とりわけ現在、図書館があらゆるメディア機能をもちはじめ、その変貌も同時に認識せざるを得ませんでした。そのなかでも、大学図書館、公共図書館がそれぞれの目的で運用され、独自の機能を果たされているが、利用者へのサービス、図書の充実については共通の課題と受け取れました。

一方、図書館と出版社は、介在するものが図書にもかかわらず、両者の距離は必ずしも近いものとはいえません。図書館と出版社が意志を伝えあう機会を書店、取次店を混え実施しはじめたことは大変有意義といえます。

今後一層、意見交換の場へ積極的に参加し、またその機会を設け、お互いの信頼関係が築かれるよう努めたいと考えています。

人文会では、図書館の蔵書構成上、人文書をはじめ専門書は不可欠と考えます。「新刊月報」「BOOK LIST」など利用しやすいリストの提供、また現品を直接ご覧いただく選書方法など、取次店、書店のご協力により実施する予定ですが、これらの活動が当会よりの一方通行とならないよう関係各位のご理解とご協力をお願いいたします。

弘報委員会

委員長 原田 敦雄

人文会の内規により引き続き弘報委員長をつとめることとなりました。昨年五月の総会で弘報委員会には25周年記念イベント企画部隊のメンバー三名をふくむ七名が配置され一年間活動してまいりました。今期の委員会構成も前期同様七名でありますが多少のメンバー交替がありました。

25周年企画グループは濱地（誠信書房）土屋（福村出版）萬洲（晶文社）の三氏です。

※東大出版会の竹内さんが人文会担当を交替されましたのでベテラン萬洲さんに加わってもらいました。当グループは一年間の活動の結果、イベント企画として『人文書のすすめ』（仮題）の発刊を決定し、目下九月上旬の刊行をめざし活動しております。

上記のイベント企画以外の従来の弘報活動をささえるメンバーは、西谷（未来社）、吉田（東大出版会）、小林（草思社）の三氏と原田（大月書店）が努めることとなり

ました。

※今期の弘報委員会活動は①「人文会ニュース」の発行(年3回・部数3600部)と、②会員社の新刊リストをまとめた「新刊月報」の発行が基本的活動となります。

※一昨年スタートした「試読室」は会内部で検討の結果、昨秋より休刊とし、より書店さんに親しめ、活用される情報紙を今期検討してゆくことになりました。どうかよろしく願ひいたします。

■お詫び

人文会ニュース66号に掲載しました「人文会特約店年間人文書売上ベスト50店」の中で、金沢・うつのみや片町本店様の増減表示に誤りがありました。うつのみや片町本店様には多大なご迷惑をかけ、申し訳ございませんでした。ここにお詫びいたします。

人文会

ミネルウ書房

半国家・日本

伊部英男著●戦後グランドデザインの破綻 今や戦後のグランドデザインは様々な面でその破綻が明らかになっている。その成立の背景、破綻の諸相とその原因の分析を通して、日本の国家としての真の自立を願ひ、新たな統合原理を徹底的に追求した力作。三八〇〇円

勝田吉太郎著作集 全8巻

近代の意味を問いつづけた碩学40年の研究集大成、好評発売中——⑤革命の神話／③知識人と社会主義／①近代ロシアや政治思想史(上)／②近代ロシアや政治思想史(下)／④アナキスト／⑥現代社会と自由の運命／⑦戦後イデオロギーの解剖／⑧民主主義の幻想
(白抜き数字は既刊) A5判上製函入●六五〇〇円

京都市山科区日ノ岡 ☎075(581)5191

人文会会員名簿

(〒111 台東区蔵前 2-6-4 筑摩書房内)

1993. 7. 現在

	社 名	担当者	〒	所 在 地	電 話	FAX
幹 事	青 木 書 店	古川 清	162	新宿区早稲田鶴巻町 538	3202-3999	3204-1187
幹 事	大 月 書 店	原田 敦雄	113	文京区本郷 2-11-9	3813-4651	3813-4656
	御茶の水書房	平石 修	113	文京区本郷 5-30-20	5684-0751	5684-0753
	紀伊國屋書店	尼子 英二	156	世田谷区桜丘 5-38-1	3439-0128	3439-3955
	勁 草 書 房	氏家 富男	112	文京区後楽 2-23-15	3814-6861	3814-6854
	社 会 思 想 社	清水 博	113	文京区本郷 3-25-13		
				中銀本郷 3 丁目ビル	3813-8105	3813-9061
	春 秋 社	鈴木龍太郎	101	千代田区外神田 2-18-6	3255-9611	3253-1384
	晶 文 社	萬洲 隆男	101	千代田区外神田 2-1-12	3255-4501	3255-4506
	誠 信 書 房	濱地 正憲	112	文京区大塚 3-20-6	3946-5666	3945-8880
	創 元 社	重光 義彦	162	新宿区山吹町 334-11	3269-1051	3269-1092
	草 思 社	小林登美夫	150	渋谷区神宮前 4 -26-26	3470-6565	3470-2640
代表幹事	筑 摩 書 房	菊池 明郎	111	台東区蔵前 2-6-4	5687-2680	5687-2685
	東京大学出版会	吉田 信夫	113	文京区本郷 7-3-1		
				東京大学構内	3811-8814	3812-6958
	日 本 評 論 社	菅田 誠	170	豊島区南大塚 3-10-10	3987-8621	3987-8590
	福 村 出 版	土屋知可夫	112	文京区小石川 1-3-17	3813-3981	3818-2786
	平 凡 社	丸山 正美	102	千代田区三番町 5 Kビル	3265-0455	3263-9333
幹 事	法政大学出版局	市川 昭夫	162	新宿区市谷田町 2-14-1	5228-6271	5228-6010
幹 事	み す ず 書 房	福田 晴行	113	文京区本郷 5-32-21	3814-0131	3818-6435
	ミネルヴァ書房	杉田 啓三	607	京都市山科区日ノ岡堤谷町 1		
				(075) 581-5191 (075) 581-0589		
			162	新宿区市ヶ谷山伏町 5	3267-3849	3235-9539
	未 來 社	西谷 雅英	112	文京区小石川 3-7-2	3814-5521	3814-8600
幹 事	雄 山 閣 出 版	武 一雄	102	千代田区富士見 2-6-9	3262-3231	3262-6938
	有 斐 閣	高橋 睦美	101	千代田区神田神保町 2-17	3265-6811	3262-8035
幹 事	吉 川 弘 文 館	阿部 昇	113	文京区本郷 7-2-8	3813-9151	3812-3544

販売企画委員会 ◎福田 ○清水 丸山 鈴木 高橋 杉田
 弘 報 委 員 会 ◎原田 ○西谷 小林 吉田 濱地 土屋 萬洲
 調査・研修委員会 ◎阿部 ○氏家 菅田 平石
 図 書 館 委 員 会 ◎市川 ○尼子 重光



有斐閣 出版案内

東京・神田・神保町2 Tel. 03-3265-6811

● 社会学界の総力を結集して完成した本格的な大辞典

新社会学辞典

編集代表 森岡清美 ●四六判・上巻／購入／一七六頁
本文・日英／二巻／横組

塩原 勉 ●現代社会学の共通言語の確立と意味の標準化を目指す
研究領域の拡大と分化、新しい理論形成や隣接分野との交流、
国際化の進展等によって捉えにくくなった現代社会学の全体
像を描き出し、今後の研究のための共通の基礎を提供する。

本間康平 ●直接接点、新しい科学へ細心の注意を払い、成果を収録
●総収録項目
●約六〇〇〇件
●執筆者総数
●五二二名
●社会学・文化人類学・法社会学・精神分析学・経済学・社会
学・社会統計学等については日本語・英語・項目の重複と被
述を行なった。記号・現象学・構造主義等の用語も採録した。

定価二〇六〇〇円

G・ジュネット／平岡篤頼・松崎芳隆訳

フイギユール

3914円

『ボイエーシス叢書18』

●四六判三三〇頁

L・ハッチオン著／辻麻子訳

パロディの理論

●四六判二九四頁・2575円

『イナナー・ミラー・テキスト集2』 岩淵・越部・谷川訳

メディアアマテリアル

—ギリシア・アルシーヴ—

●四六判三五一頁・3296円

未来社

東京都文京区小石川3-7-2
電話 (03) 3814-5521 〒112

古代東国と木簡

川崎市市民ミュージアム編 ●最近出土の成果
●3500円

上代説話事典 ●日本の神話・伝説の全体像
●5800円

大久間喜一郎・乾克己編 ●

図説庶民芸能江戸の見世物 ●雄山閣ブックス8
●3000円

古河三樹著 ●

スリランカ仏教美術入門 ●

伊東照司著 ●

篆書 ●入門から応用まで
●2880円

水野栗原著 ●

帰化人と古代国家

平野邦雄著 ●四六判／定価二三〇〇円

地中からの倭国を掘る

メッセーシ 小田富士雄著 ●四六判／定価二二〇〇円

平安の朝廷 その光と影

笹山晴生著 ●四六判／定価二二〇〇円

奥州藤原氏 その光と影

高橋富雄著 ●四六判／定価二二〇〇円

吉川弘文館

東京都文京区本郷7-2 電03-3813-9151

雄山閣

*価格は税込

千代田区富士見2／振替東京3-1685

法政大学出版局

宗教と魔術の 衰退 キース・トマス

ウルフソン文芸賞（歴史部門）受賞

荒木正純訳 くらしに根ざした魔術や占星術、呪いや予言の実態を詳細に明らかにし、キリスト教による魔術の取り込み・対立の歴史にイングラント民衆生活の変貌を辿る上下巻二冊セット定価一四九三五円（税込）

〒162 東京都新宿区市谷田町2-14-1
☎03-6228-6271 振替・東京6-95814

深刻な問題に直面する地球環境を広範な視点から徹底討論／ 注目のシンポジウムの記録を緊急出版。

最新刊

グローバルな 環境問題を 考える

四六判／定価1800円

◆中村元 中村雄二郎 日野啓三 山折哲雄 長谷川逸子 宇沢弘文 大来佐武郎 室田武 間宮陽介 石弘之 石田雄鶴 見良行 加藤久和◆

東京・文京 福村出版 電話 (03) 小石川1-3 3813-3981
* 定価は税込 *

黒人はなぜ待てないか

キング アメリカ黒人の公民権闘争の歴史と現在、そして未来を語った非暴力理念の実践者の声。中島・古川訳 二〇〇円

良心のトランペット

キング 人種差別、非暴力、貧困と世界平和をめぐる講演集。兜弾にたおれたキング師、最後の言葉。中島和子訳 一五二円

ドイツ人

クレイグ ドイツ人の重層的な像を、ヒトラーと新しい世代、マルク、民族問題等から多角的に描く。眞鍋俊二訳 六二〇円

ある思想家の回想

アイザイア・バリンとの対談 「自由論」の比類なき知性が語る。思想と政治の二十世紀とは？ 初めての自伝的インタビュー。河合秀和訳 三〇〇円

東京文京本郷 3丁目17-15

みすず書房

最新の研究成果を大胆に取り入れた大事典

好評発売中！

日本史大事典

全7巻
本巻6巻
索引1巻

平凡社創業80周年記念出版

青木和夫／網野善彦／大津透／佐藤進一／高木昭作
塚本学／坪井清足／橋本義彦／坂野潤治／山崎広明

項目数：約25,000 執筆者数：約2,700名 図版数：約4,000点
カラー別刷各巻16ページ 各巻平均1,300ページ A4変型判 3段組

●各巻定価15,000円（税込）

第1巻～第3巻絶賛発売中、第4巻8月下旬発売

平凡社 〒102 東京都千代田区三番町5
振替・東京8-29639 ☎03-3265-0455

山科三郎●著

自由時間の哲学

● ¥2472 税込
生の尊厳と
人間的共同

「能力」原理と「競争」原理にもとづいて、
「豊かさ」を演出する「企業社会」の呪縛を
乗り越える思想的オルタナティブを提示。

吉原直樹●編著

都市の思想

空間論の
再構成にむけて

● ¥3605 税込
気鋭のアーバノジストたちのマニフェスト
《都市を発見》した思想家たちの営為を、新た
な時間空間のもとで解説する都市学の新展開。

青木書店

東京都新宿区早稲田鶴巻町538 [03] 3202-3999

● 中国人強制連行と日本の戦後責任を問う！

花岡事件を見た二人の証言

野添憲治著 定価2472円

鹿島組元職員、進駐軍通訳、看護婦、警官、近所の人
人山狩り拷問を目撃した人々によって、事件後四八
年目にして語られた驚くべき新事実の数々。

聞き書き 花岡事件

【増補版】

野添憲治著

定価2884円

敗戦の直前に秋田県大館市の花岡鉦山で起きた鹿島組
による中国人虐殺事件の真相に迫る資料と証言、
最新の中国での聞き取り調査を加えた中国人強制連行・虐殺事件の記録

御茶の水書房

〒113 東京都文京区本郷5-30-20
☎03(5684)0751/振替東京8-14774

弱者の哲学

竹内章郎著

B6判・1500円

「弱者」はいかにして哲学のテーマとなりうるか
現代をおおう効率万能主義は「弱者」をはじき飛ばす。
「弱者」という存在が社会と文化の在り方へ向けて投げ
かける問題を通じて人間存在の意味を問う。

知識人の近代日本 吉田僚俊著

対話で綴る知識人達の成果と挫折。B6判・1500円

大月書店 東京都文京区本郷2-11-9
電話03(3813)4651<代表>

千のナイフ、千の目

蜷川幸雄

「世界のニナガワ」の劇的な半生、そして
過激な創造活動のすべて！▼1600円

化学の結婚

【付・薔薇十字基本文書】

アンドレーエ／種村季弘Ⅱ訳・解説

謎の書「化学の結婚」が待望の邦訳！こ
こに公開、薔薇十字の秘密 ▼4200円

紀伊國屋書店

出版部：東京都世田谷区桜丘5-38-1
☎03(3439)0128(営業) 表示価格は税込み

晶文社の
メディカルエッセイ

レナードの朝
O・サククス 石館康平・宇夫訳 脳炎後遺症患
者の奇跡的な目さめ。感動のエッセイ。 二九〇〇円
言葉のない世界に生きた男
S・シャラー 中村妙子訳 耳の不自由な青年と
手話通訳者の希有な出会いの記録。 二四〇〇円
心の病が癒されるとき
R・ローガン 田村博一訳 ロンドンの精神病棟
の希望と勇氣にみちた再生の記録。 二三〇〇円

晶文社 東京都千代田区外神田2-1-12
電話 03 (3255) 4501

友定啓子

幼児の笑いと発達

身体・感情・知性の産物＝笑いが複雑に
変化しゆく過程。 2060円¥310

北川純子

音のうち・そと

日本<ポピュラー>を音楽学と社会学
の間で捉える試み。 1957円¥310

蔵 琢也

美しさをめぐる進化論

容貌の社会生物学 美人が好まれ
る本当の理由とは。 2987円¥380

J.ヴァーレイス編／田村俊作 他訳 情報の要求と探索

利用者研究の視点から、よりよい
図書館を考える。 2472円¥380

* 定価は税込／振替東京5-175253

東京文京 勁草書房 電話(03)
後楽2-23 3814-6861

わたしらさの発見3

怒りのダンス

人間関係のパターンを変えるには
H.G.レーナー／園田雅代訳 人間
関係の葛藤を解決するために、女性
が抑圧されてきた怒りをどうコントロ
ールするかを具体的に記述。 2781円

臨床心理士に なるために(第6版)

財日本臨床心理士資格認定協会監修
資格取得のためのマニュアル。 1300円

誠信書房 東京都文京区大塚3-20-6
TEL.03-3946-5666

◆吉本隆明 時代の病理

忽ち重版!

◆田原克拓(聞き手) 消費社会に
おける不安はどこからくるか。
こころの病理からみた時代の未知
に立ち向かう。吉本隆明の白熱の
「現代公害病」論／ 17000円

▶ 定価は消費税込み

東京外神田 春秋社 電話(03)
2-18-6 3255-9611

非
売
品

回覧者印	回覧者印	回覧者印	回覧者印